

## 下呂市医療フォーラムのアンケートから 広報げろ 2007.2

下呂市医療フォーラムのアンケートから

心筋梗塞、脳卒中、交通事故などは一刻も早い救急処置が必要です。

現在健康に過ごしておられる方々にはひとつとのように聞こえるかもしれませんが、明日はわが身なのです。高齢化社会の今日いつ自分が当事者になるかわかりません。そんな時あなたはどこの救急病院にかかりますか。

心筋梗塞は心筋を栄養する血管が詰まる病気です。これは一刻も早く血液の流れを再開させることが必要で、処置が遅れば遅れるほど、助かってもその後に心臓に生活していくうえでの大きな障害を残します。

脳梗塞は脳を栄養する血管が詰まる病気で、発症後早期に血栓を溶かす薬を使えば助かる可能性が高まる病気です。この治療には24時間医師による監視が必要です。

事故でもっとも緊急な処置を必要とするのは呼吸障害、出血でしょう。気管内に管を挿入して呼吸を助けたり、止血や輸血など、医師による専門的救急処置が必要です。

これらの生命にかかわる病気や怪我に対処するためにはより近くに救急病院があることが必要で、しかも24時間、医師の待機がなければ対処できません。このような早急な処置を要する患者を下呂市外へ搬送しては間に合いません。アンケートでは医療効率などから病院を統合したら、という意見もありましたが一刻も早い一次救命処置を行うためには救急病院が少なくとも20キロメートルにひとつは必要と考えます。

アンケートの中に医師の資質を問う声がありました。病院が皆さんに選ばれるためには頼れる医師がいなければなりません。医師不足の中で病院は医師の資質を云々できるどころか医師を選ぶことさえできない状況にあります。そのような中で多くの医師を必要とする救急医療はチームワークで資質の向上を目指しています。

医師不足が深刻な状況の中でアンケートから、病院に勤務する医師と住民の間で、医師が従事すべき仕事の内容について意識の差があると感じました。医師が働く病院を選ぶようになった今日、当直で時間外の専門以外の診療に振り回され、本来の専門診療に身を入れることが困難な現状を見るとき、医師に選ばれる病院であるためには住民にとってどのような受診の仕方がよいのか考えなければならぬ時期に来ているのではないのでしょうか。

病院を診療所にしたらという意見もありました。診療所では救急医療に対応できません。また、現在の医師不足の中で、診療所規模では医師は来ません。

下呂市に安心して住み、仕事をするためには、救急病院はなくてはならないものと考えます。救急病院を存続させるためのよい方策を皆さんとともに考えましょう。

下呂市立金山病院 院長 古田智彦